

contents

- ・ 病院長ご挨拶
- ・ 診療科紹介
- ・ 医療用マスク等ご寄付の御礼
- ・ 2020年4月就任教授紹介
- ・ 2020年度講演会・研修等の開催について
- ・ 診療科紹介



編集：杏林大学医学部附属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>



東京は今、新型コロナウイルスの猛威のため未曾有の危機に瀕しております。三鷹市を含む北多摩南部二次医療圏も例外ではなく、平時の医療の維持が困難な状態が続いております。

当院においても2月から院内感染の予防を含めて対応してまいりましたが、4月に入り東京都からの要請があり入院患者受け入れ病床数の割り当てに対応すべく調整いたしました。しかし、当院も含めて都立病院や感染症指定病院だけでは今後も急増する患者には対応できません。

このため、東京都医師会はPCRセンターを都内に開設することを決定し、すでに新宿などで稼働しております。今後は多摩地区においても開設が予定されているようですが、地区の医師会の協力が必要となります。当院は今後も皆様と連携して国難ともいえるこの難局を乗り越えたいと考えております。今こそ“ONE TEAM”になって手強い新型コロナウイルスに立ち向かいましょう。

杏林大学医学部附属病院
病院長 市村正一

■ 医療用マスク等ご寄付の御礼

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、当病院におきましてもN95マスクはじめ個人用防護具の不足が懸念されている中、個人並びに企業の皆様から貴重なN95マスク、ゴーグルやフェイスシールド等の個人用防護具のご寄付を賜りました。



感染症と闘っている現場の医師、看護師はじめ病院職員一同、皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。頂きましたマスク等は大切に使用させていただきます。

2020年度講演会・研修等の開催について

今年度も杏林大学公開講演会やがんセンター主催講演会「がんとともに健やかに生きる」、がん看護研修など、患者さん・一般向け、医療者向けの各種行事の開催を検討しています。

開催が決まりましたら随時、当院ホームページでご案内いたします。



診療科紹介

◆ 耳鼻咽喉科・頭頸科



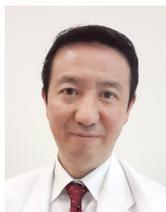
診療科長 齋藤 廉一郎

当科は、耳、鼻、ノド、そして頭頸部腫瘍と、様々な領域を治療の対象としています。そのため、聴覚・嗅覚・嚥下・音声といった機能に加え、整容面にも配慮した診療が求められます。当科の特徴と取り組みに関するキーワードは、以下の通りです。

1) 耳 (増田研究班): 耳管開放症に対するコラーゲン注入療法、心理と耳疾患、補聴器のフィッティング、高齢難聴者の手術、人工知能 (AI) を用いた顔面神経麻痺の重症度評価、ウイルス性顔面神経麻痺に対する新規診断・治療法。2) 鼻 (横井研究班): ナビゲーションシステムを用いた鼻副鼻腔頭蓋底手術、鼻中隔彎曲症における手術の工夫、アレルギー性鼻炎に対する幅広い治療、好酸球性副鼻腔炎重症例に対する分子標的薬。3) ノド (齋藤研究班): 日帰り音声外科手術、声の老化に対する強力な音声治療、超高精細 CT を用いた喉頭疾患の病態解明、小児気道・音声のマネジメント。(唐帆研究班): 高解像嚥下圧検査装置による嚥下機能診断、4) 頭頸部腫瘍 (佐藤研究班): 頭頸部癌に対する機能温存手術や先進的な薬物治療、耳下腺腫瘍に対する創部が目立たない手術、甲状腺疾患に対する内視鏡補助下甲状腺手術 (video-assisted neck surgery, VANS法)。

このようなキーワードを掲げ、患者さんの要望にお応えできるよう、「標準治療の一步先」を目指して努力しています。

◆ 呼吸器内科



診療科長 石井晴之

当科は気管支や肺の病気（肺癌、間質性肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、そして急性呼吸不全をきたす感染症など）を幅広く診療しております。肺癌や間質性肺炎は、個別化医療を進めている専門性の高い分野で、気管支鏡・外科的肺生検を含めた専門的検査を行い、放射線科・呼吸器外科・病理科との合同会議の上で確定診断・治療方針を決定しています。

肺癌治療は入院だけではなく外来化学療法も運営し、気管支鏡検査も週3日間と積極的に行っております。胸部異常陰影や慢性咳嗽などで、肺癌や間質性肺炎を疑う場合は当科にてしっかり対応しますので、どうぞ御紹介ください。

また肺癌やタバコの健康障害などの市民公開講座、近隣医師会・薬剤師会との合同研究会、また稀少肺疾患の患者会など病院外の活動も定期的の実施しております。

医療関係者の皆様方と今まで以上に情報共有していきながら、西東京エリアの呼吸器診療を発展させるよう努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

◆ 腫瘍内科



診療科長 古瀬純司

当科はがん化学療法を専門としており、主に消化器がん、原発不明がん、難治がん、希少がんも積極的に診療しています。患者さんの数は徐々に増え、特にこの2-3年新規患者数が400-500名/年と増加しています。がん化学療法の進歩が大きく、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など新しい種類の薬剤が増え、複雑な管理方法や副作用対策など、腫瘍内科の役割が増してきているものと思われます。

近年、がん化学療法はさまざまな新規薬剤、さらにはがんゲノム医療の導入が進んで、治療成績も向上しています。安心して通院治療が受けられるよう、医師、看護師、薬剤師など多業種の連携がこれまで以上に重要であり、さらに循環器、糖尿病、内分泌など従来がん治療と直接関係のなかった診療科との連携も必要になっています。また、最近では切除できない進行がんが、化学療法により腫瘍を縮小することができ、切除手術が行われることも少なくありません。外科との一層の緊密な連携も必要です。多摩地区を中心としたがん化学療法の拠点として、地域連携を通じ、患者さんが安心して治療を受けられるようがん治療を進めていきたいと考えています。

2020年4月就任教授紹介

整形外科

(教授) 細金 直文



慶應義塾大学医学部 卒業 博士(医学)
慶應義塾大学病院、川崎市立川崎病院、米国 Hospital for Special Surgery リサーチフェロー、慶友整形外科病院、防衛医科大学校病院などを経て、平成30年杏林大学着任

世界で最も高齢化が進む日本では、運動器の疾患でQOLが低下する患者さんが増加の一途を辿っています。当科では脊椎・脊髄、膝関節、股関節、肩関節、外傷、骨軟部腫瘍などの整形外科各分野において専門性の高い医療を提供できるよう、より一層精進してまいりますので、今後とも引き続きご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

神経内科

(臨床教授) 市川 弥生子



筑波大学医学専門学群 卒業 博士(医学)
東京大学医学部附属病院、公立昭和病院、日本学術振興会特別研究員(PD)、川崎医科大学等を経て、平成26年杏林大学着任

当院は、「東京都難病診療連携拠点病院」に指定されており、神経難病の診断・治療、そして稀な遺伝性神経疾患の診療に積極的に取り組んでおります。臨床遺伝専門医の経験も活かして、遺伝診療にも力を入れていく所存です。地域の患者さん及び諸先生方のお役に立てるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

形成外科・美容外科

(臨床教授) 尾崎 峰



東京医科歯科大学医学部 卒業 博士(医学)
関東中央病院、静岡県立総合病院、東京大学医学部附属病院を経て、平成15年杏林大学着任

形成外科で扱われる疾患は多岐にわたりますが、顔面骨折などの顔面外傷、頭蓋顔面形態異常、そして乳児血管腫から希少疾患である動脈瘤奇形などの血管奇形を専門として診療しております。多様な治療法があるなかで、最善の治療を提供できるよう日々研鑽を積む所存です。今後ともご指導の程、よろしくお願ひいたします。

リハビリテーション科

(教授) 山田 深



慶應義塾大学医学部 卒業 博士(医学)
慶應義塾大学病院、杏林大学医学部附属病院、慶應義塾月が瀬リハビリテーションセンター、宇宙航空研究開発機構などを経て、平成25年杏林大学着任

身体構造と心身機能における機能障害の改善、活動制約と参加制限の解消が私の使命です。地域で暮らす皆様における生活機能の維持向上に資するよう、あたたかい心のかよう、良質なリハビリテーション医療の提供に向けて努力して参ります。今後とも皆様のご支援を、よろしくお願ひ申し上げます。

高齢診療科

(臨床教授) 大荷 満生



杏林大学医学部 卒業 博士(医学)
杏林大学医学部附属病院、藤田保健衛生大学総合医科学研究所を経て、平成2年杏林大学着任。平成30年杏林大学医学部附属病院 医療安全推進室室長

当院を始めとする特定機能病院は、最先端の医療を社会に提供すると共に、極めて高いレベルの医療安全体制を構築することが求められています。当院を受診して下さる患者さんが、安心して安全な最先端医療を受けていただけるよう微力ながら努力して参ります。何卒、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

病理診断科

(研究教授) 藤原 正親



筑波大学医学専門学群 卒業 博士(医学)
筑波大学附属病院、県西総合病院を経て、平成17年杏林大学着任

さまざまな腫瘍に対する分子標的治療薬が開発されており、病理検体を用いたバイオマーカー検査が重要になってきています。病理には従来どおりの形態学的診断に加えて、それらの新しい検査への対応も求められています。

臨床のニーズに沿っていけるよう努力する所存でございます。今後とも皆様のご指導をお願ひ申し上げます。